



圓光大師傳

世七之八



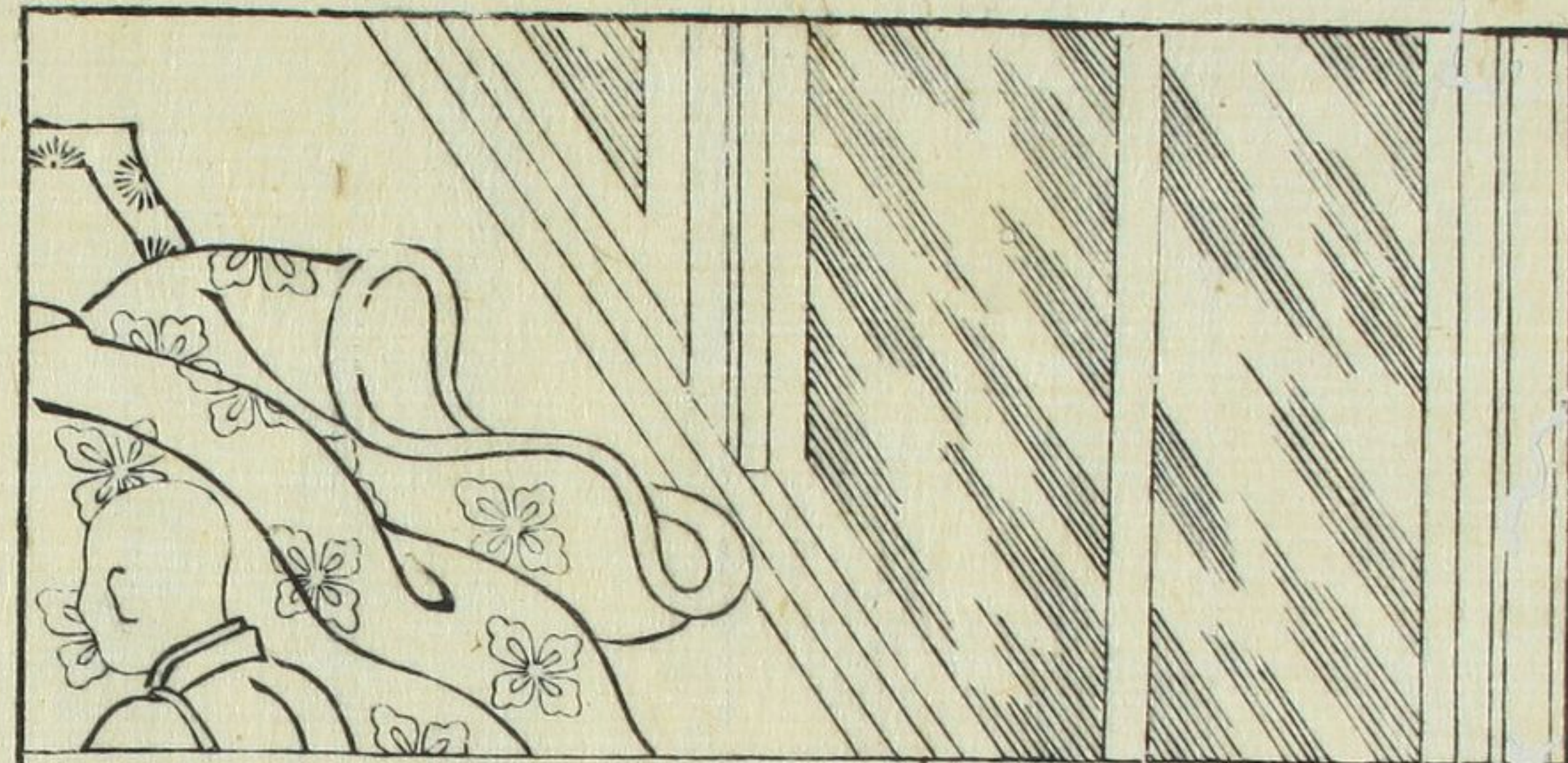
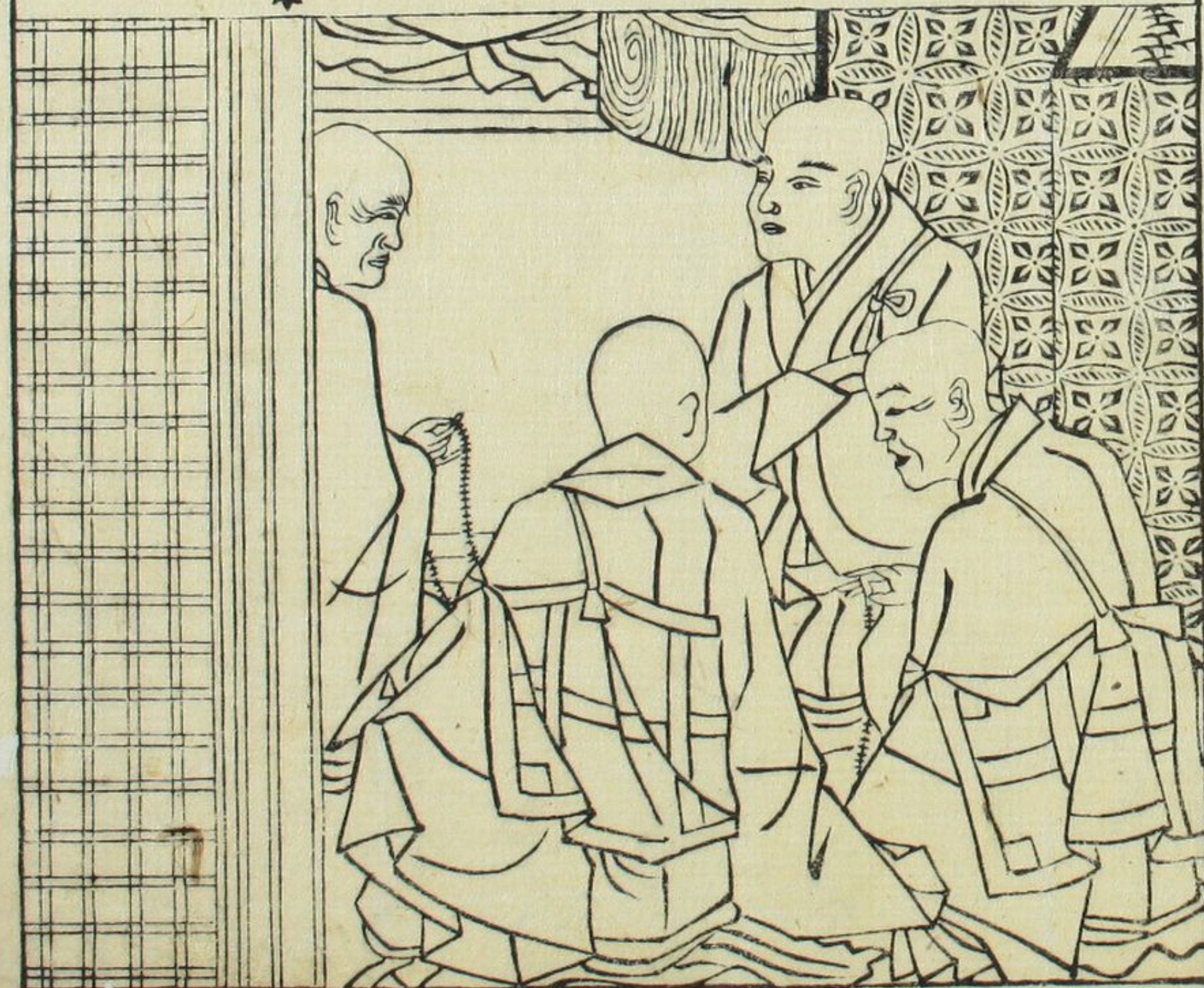
法然上人行狀畫圖第三十七

建曆二年正月二日より。上人日來不食其所勞
増氣一強へり。すべてこれ三四年より此より。ハ
耳目朦昧よりして。色は見え聲はきき強事。ことに
不明たつ。次つるをいふ大漸其期ちるまで。
二根明利たる事。しつゝ。またうはよと。身する人随
喜し。不思議れたまひをたつ。二日以後も。
更り餘言をよへ。次は。いふ。往生此事は



談し。高聲に念佛をえけりて睡眠の時を
舌口ころくたへようごく。同三日ある弟子今
度の御往去。変定歟とたづみ申に。此地
もと極樂にありし身なり。けしむる免く
かへらゆく處しとの給ぬ。又法蓮房申は。是
古来に先徳これに遺跡あり。まじり
いま精舎一宇を建立たり。御入滅乃後いけ
く遺して。御遺跡とよぶまやと。上人谷路

いく。あとに遺一廟に志むきん遺法あり。この
らに予の遺跡は諸列に遍満とて。いへんを
わすれ。念佛に興行は愚老一期乃勸化なり。
こまに念佛を修せんとする。貴賤を論せ
海人漁人が。あやまて。これに予の遺
跡たる。ゆゑに。これにけり。



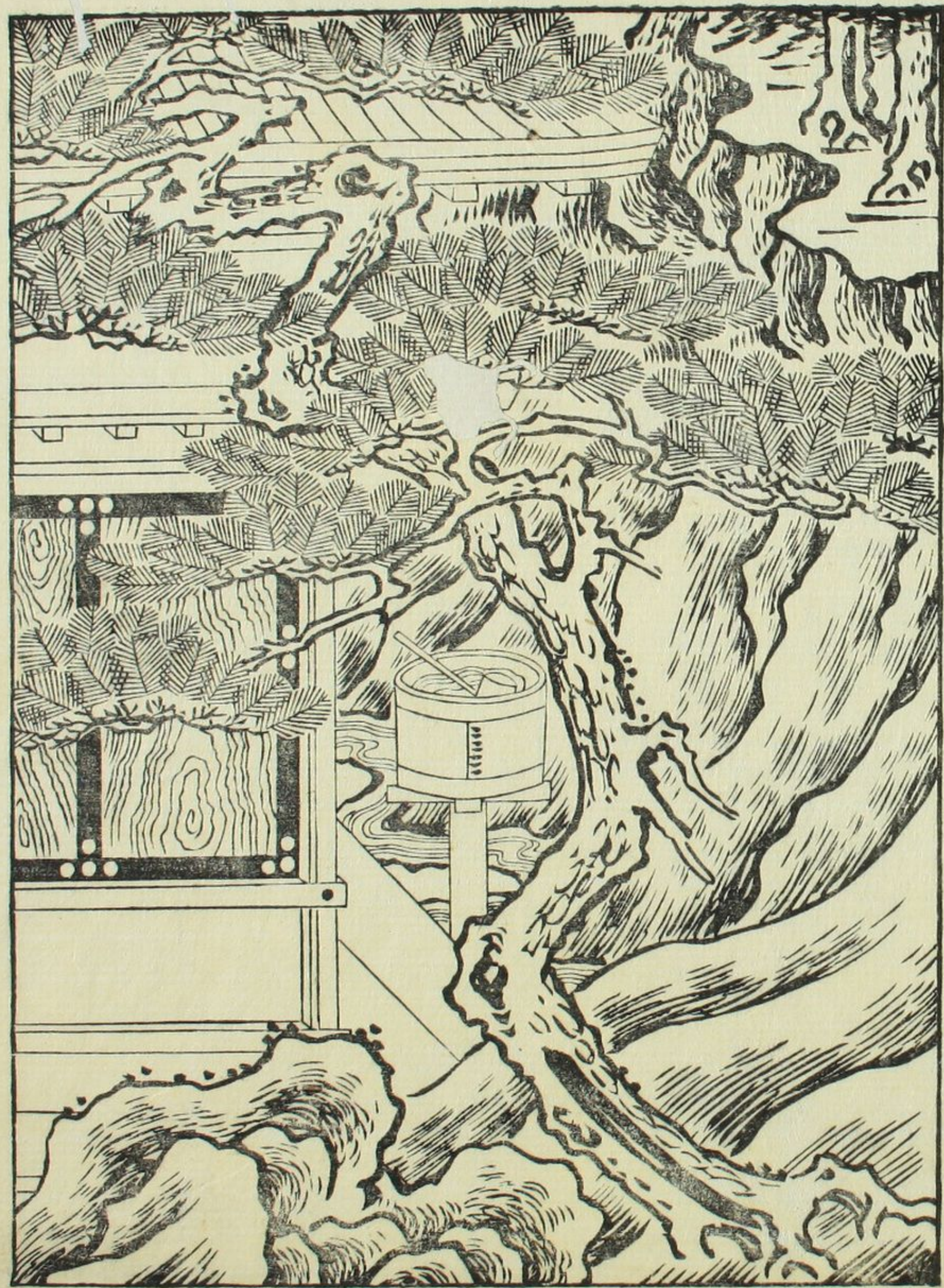
十一日辰時いひのしきなり。上人おき居かて高聲念佛かうせいねんぶつ一
人ひと泣なみきく人ひと泣なみきく涙なみをたぐ弟子等でしとうよひきて
のたまはく高聲よ念佛すへ。弥陀佛みだつたつのみき
りて泣なみへるなり。これ泣なみきをとなふまじし一人と
しても往生おうじやうと泣なみといぬ事ことなり。念佛ねんぶつの功こう
徳とくをほめ泣なみことあるをいひし。これ泣なみく。観音くわんおん
勢せい至し菩薩ぼさつ聖衆しょうじゆ現げんじてまじし。南無なまなむと
たてまつるやとの泣なみへる弟子等でしとうなり。さて

まつ泣なみと申まをす。これをまじし泣なみていよく念佛ねんぶつと
なり。とす。泣なみ泣なみふ

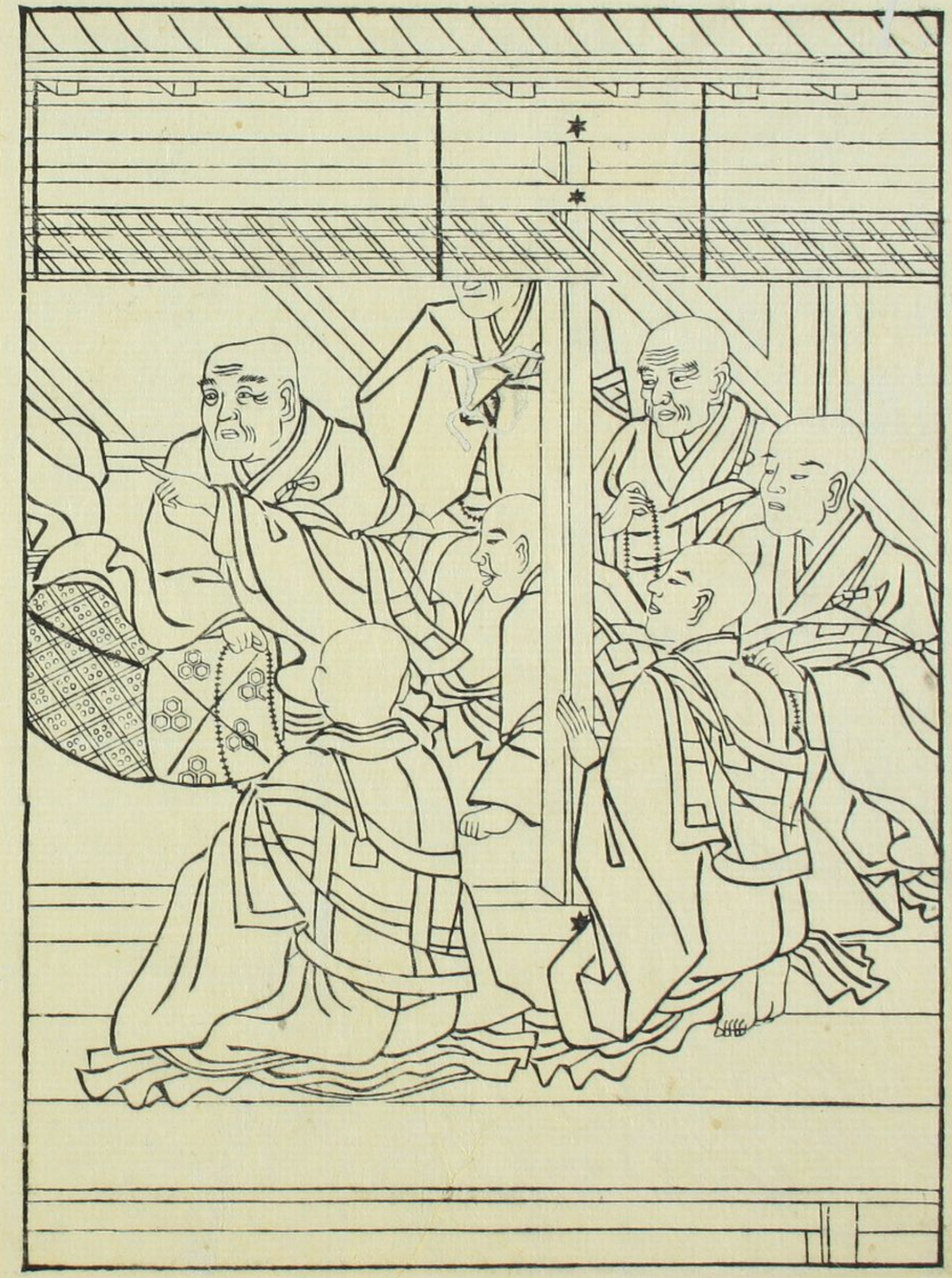


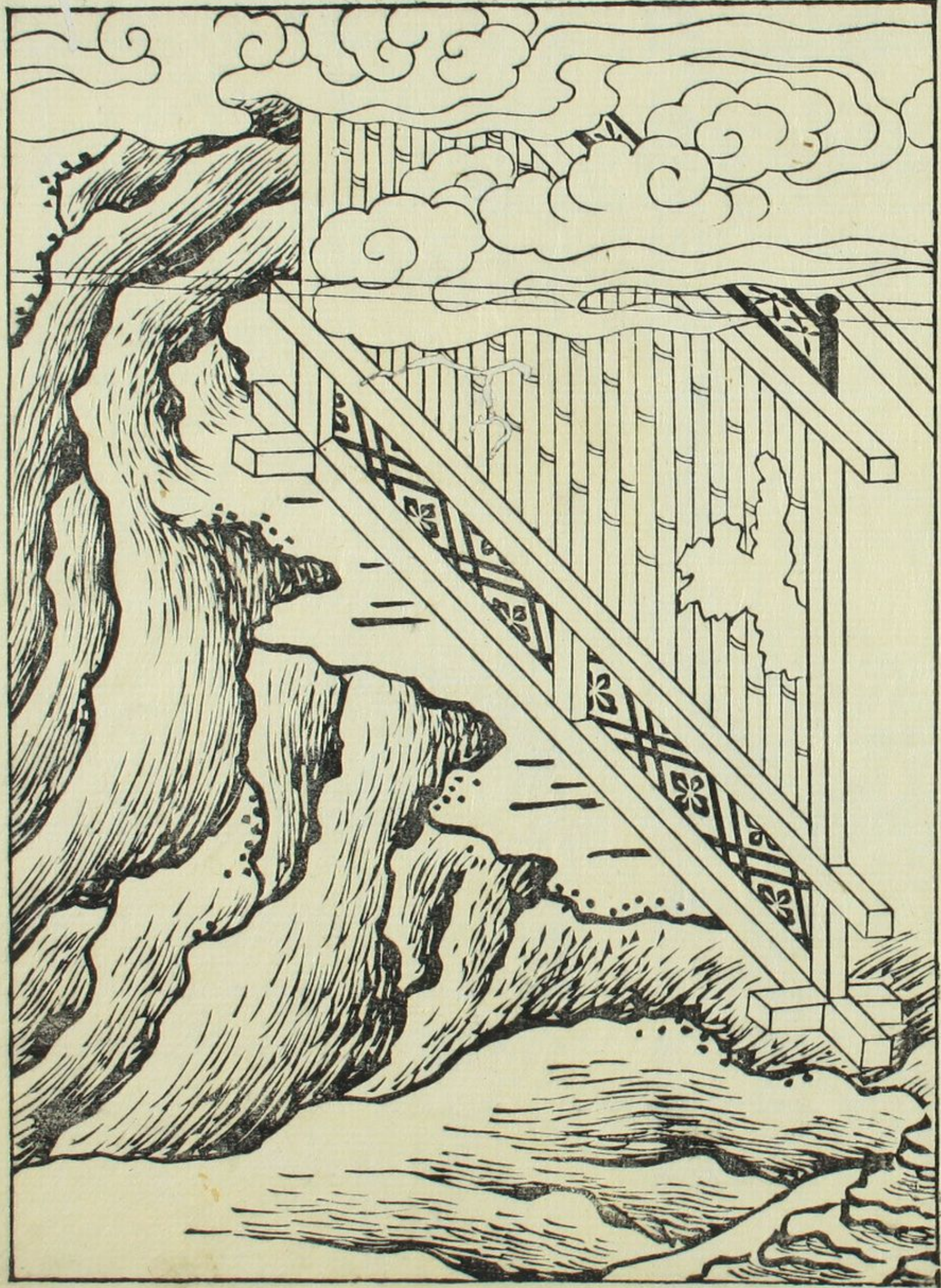


同日れ巳時（ひま）なり。弟子等（でい）三尺の弥勒（みろく）の像（やぐら）を
 ひうへたてまつりて。病床（びやうじやう）れ（ま）こぎにたてまつりて。
 これ佛（ぶつ）れ（が）こ（も）ち（は）す（や）と申（ま）す。上人（じやうじん）ゆ（び）よ（え）
 う（を）け（し）て。これほ（ら）け（の）や（う）よ（又）佛（ぶつ）あり
 ます。た（う）じ（や）い（れ）を（お）ほ（せ）ぬ（ま）して。それ
 は（ら）こ（ま）り（の）強（く）た（か）よ（そ）これ十餘年（じゆねん）
 より（こ）れ（る）。念佛（にぶつ）功（こう）は（ま）り（て）極樂（ごくらく）の莊嚴（じやうげん）及（お）
 佛菩薩（ぶつぼさつ）の真身（まごん）を（た）が（ま）た（し）まつ（る）事（つ）のみ（乃）



事^{こと}の^し志^しの^たれ^たご^をや^しご^ろの^秘し^てい^ふ所^所。
 い^ま最^{さい}後^ごの^のど^れの^から^へよ^しめ^すと^ころ^を
 ち^りと^やし^の弟^{てい}子^し等^ら佛^{ぶつ}の^の御^ご手^てに^に五^ご色^{しき}の^の糸^{いと}を
 け^りと^らし^のち^のう^へに^にあ^せと^す先^{せん}や^せい^と人^{ひと}の^の
 ま^りに^のや^うの^の事^{こと}に^には^はみ^れ人^{ひと}の^の儀^ぎ式^{しき}あ^ら
 わ^りの^よを^まさ^して^いま^まの^のれ^いの^をま^さ
 ら^しめ^るに^はか^らい^のれ^いの^を

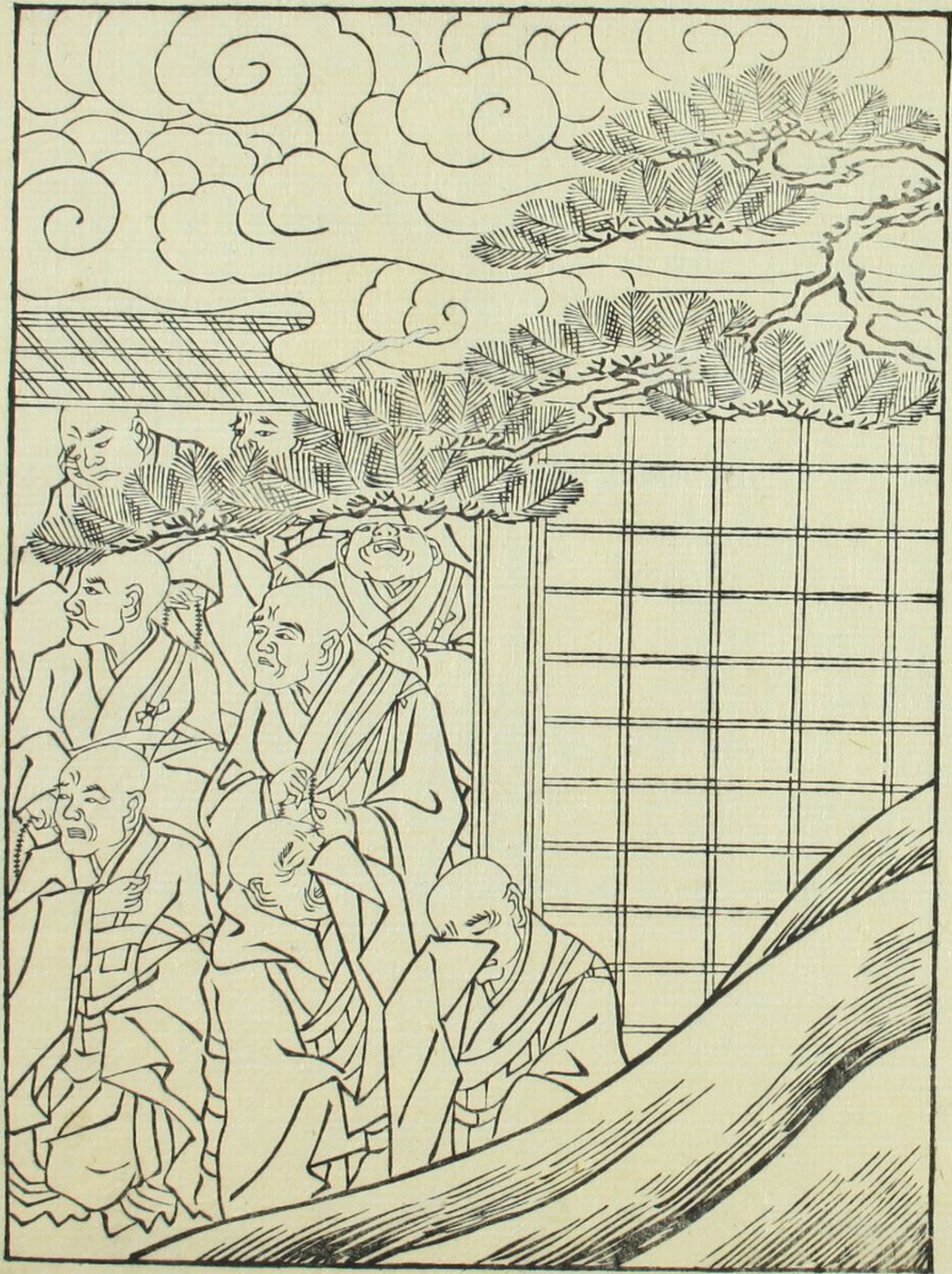




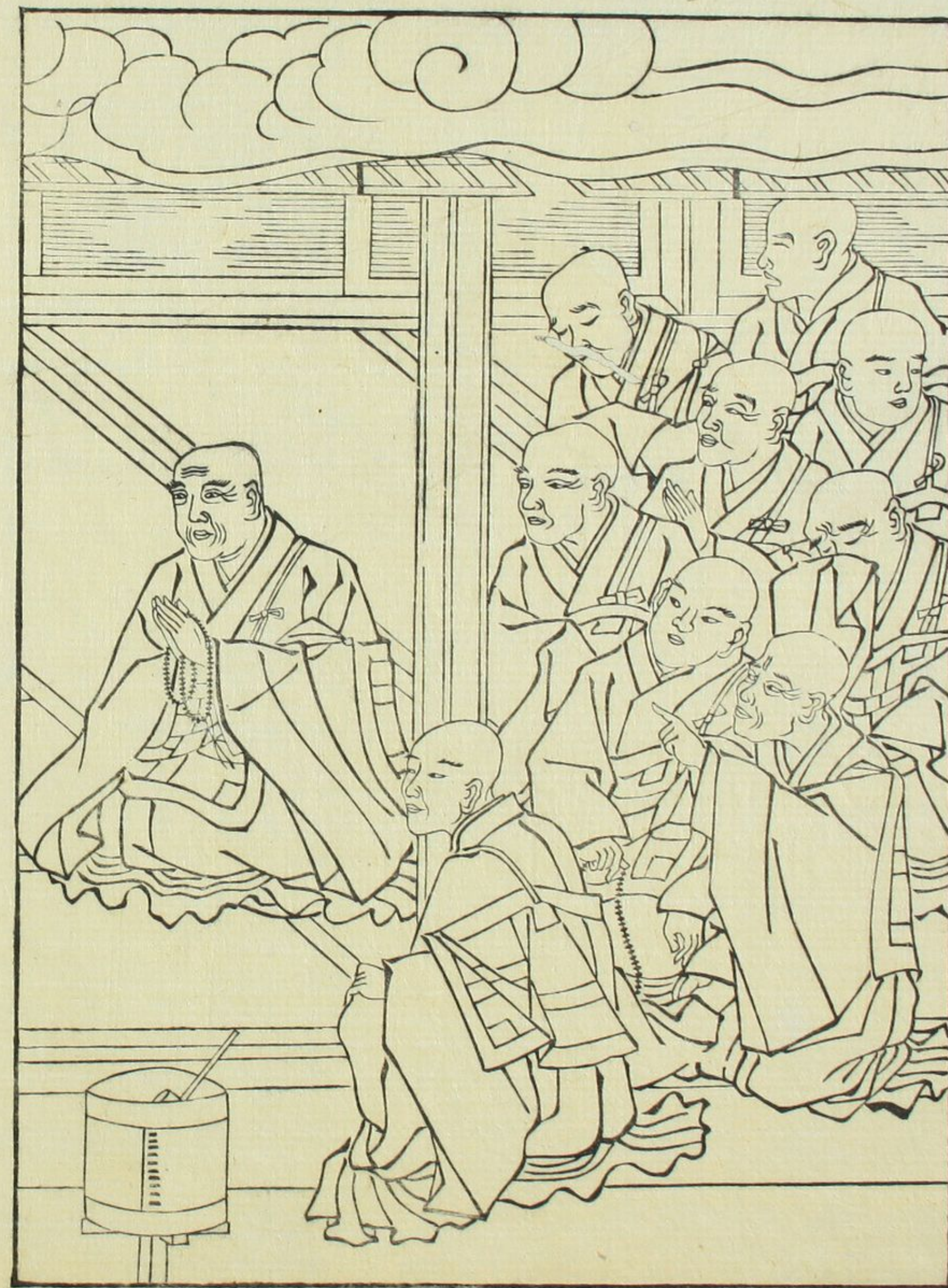
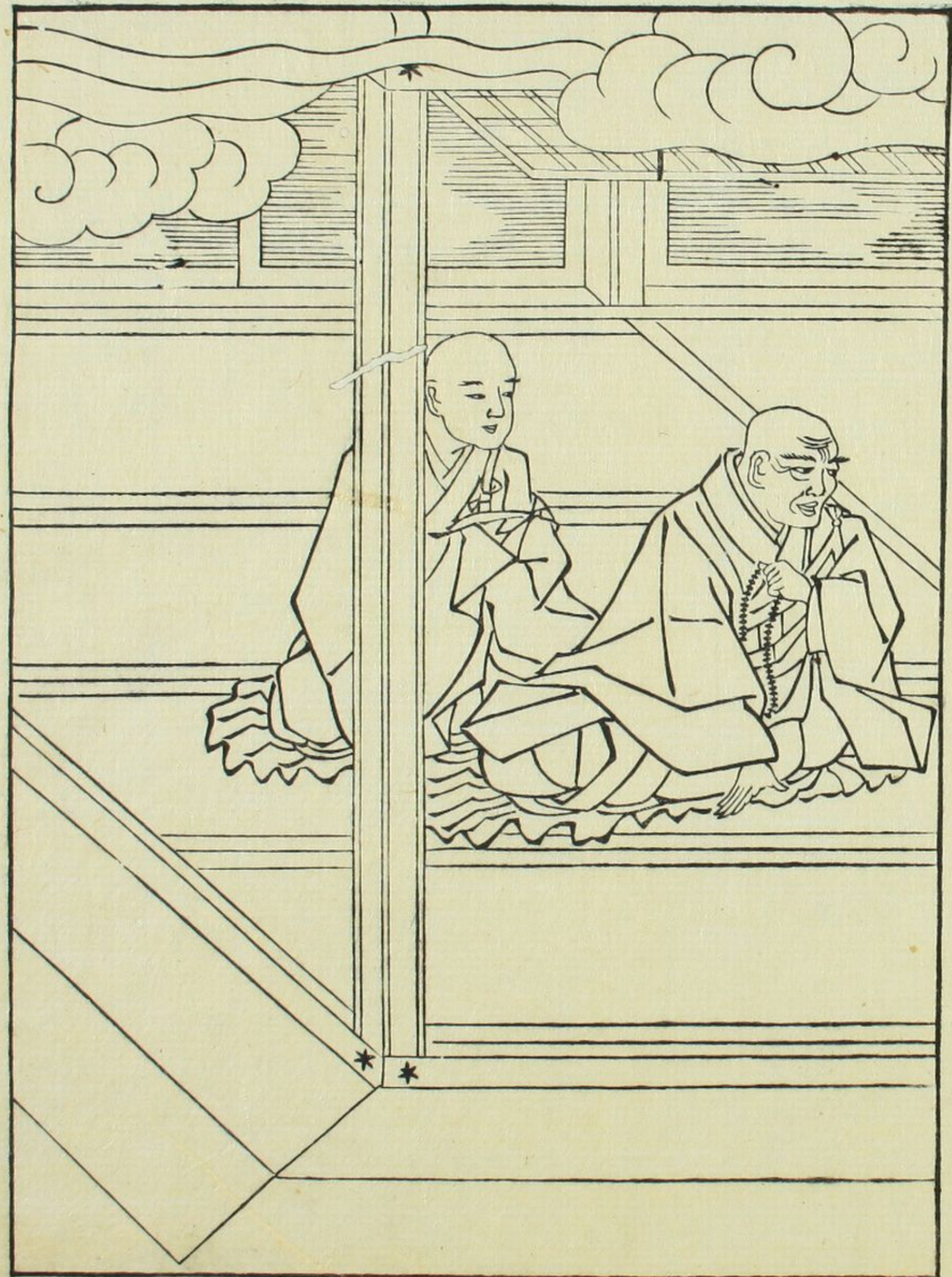


廿日ニニ日ニ巳時ミ。坊ボウれうへり紫雲シをびく中に
圓形エンの雲クモありその色五色ありて圖繪グ乃
佛ブツれ圓光エンのニ。路次ロ往イ反ヘの人處キョクよりて
これをもんニ弟子等シ申コトはく。これうへに紫雲
あり。御往生ミのらぶニま強ニへコトと。上人ウの強
あり。これなり。れや。往生ニ一切衆生の
ためなり。念佛ニの信ニをニ。めんがためんよ
瑞相現ズイとニなりと。又ニなりニ。廿日ニニ未ミの時に

いたりて。室ムロをこあげて。目志メとニ。もさ
るニ。事コト五六反ヘなり。看ケン
病ヒヤクの人ニ。あやニ。佛ブツれ来キ強ニへコト。たづ
申コトせニ。然シカ。好コト。又ニ廿四日ニニ巳時ミ。
紫雲シれほきよたふニ。西山シの水ミヅ乃尾ニれ
峯ミネにニ。すニ。やニ。十餘人シウ。これをも
来てキ。申コト。廣隆寺クワより下向ゲ。今イマ禪ゼン尾ニも。
途中トチウあり。これをもニ。たづニ。なり



ことごとくを申渡見聞けんの諸人随喜ずいきせよといふ
事なり





Small vertical text or signature on the left margin of the first page.



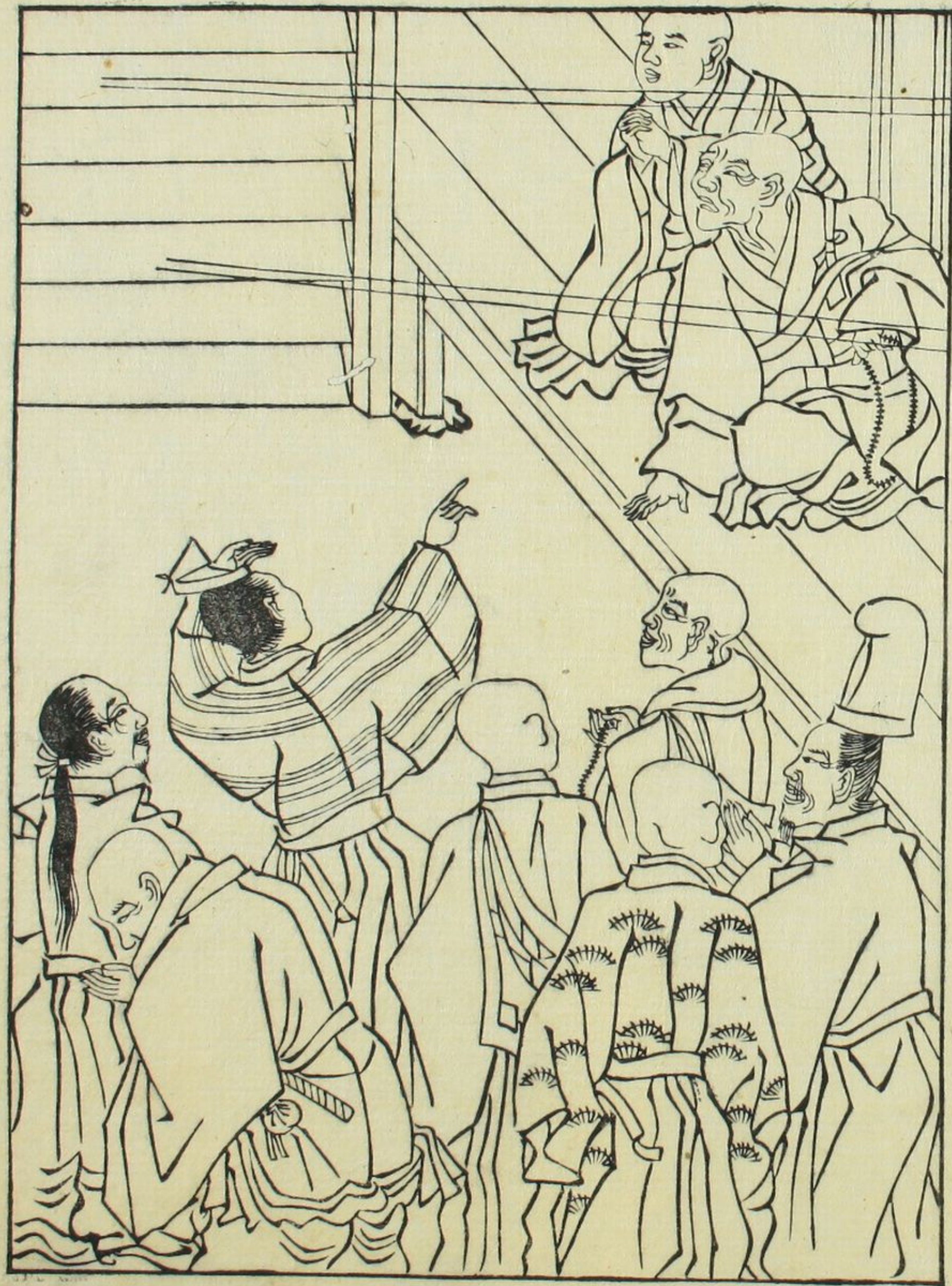
Small vertical text or signature on the right margin of the second page.

廿三日よりい上人の御念佛あるひに半時あるひ
一時高聲念佛不退なり。二十四日午尅より
二十五日未時よりいしるまでい高聲躰をせ
りて無間なり。弟子五六人。いりてく助音
するに。助音の躰屈といへとも。老邁病悩の
身をこころ強ひけ。未曾有此事なり。群集れ
道俗感涙をえよほりといぬ事なり。二十
五日未尅よりい念佛の御事やうなすりに

して高聲はともくもいひる。いりて臨終よ
のそと強ひて。慈覺大師の九條の袈裟をうけ
頭北面西よりて光明遍照十方世界。念佛衆生
攝取不捨の文をこれして。祓ふるごとくして
息たえもいひぬ音聲とほりてれら。か紙
唇舌をうごけ強事十餘及らりれ。面色
してあざやうに形容をいふ。似たり。建曆
二年正月二十五日未時正中なり。春姝八十に



こら強釋尊ちやうしやくそんは入滅いりめつよわぬ。壽筭じゆさんのひらき
 のこにあくは。支干しかん又またこもに壬申みづのへたり。豈奇あなま
 特とくよあふすや。惠燈ゑとうすてよさえ。佛日ぶつじつある没なげ
 しぬ。貴賤きけんの哀傷あひしやうとる事。考妣かうひを喪しやうするら
 ころ





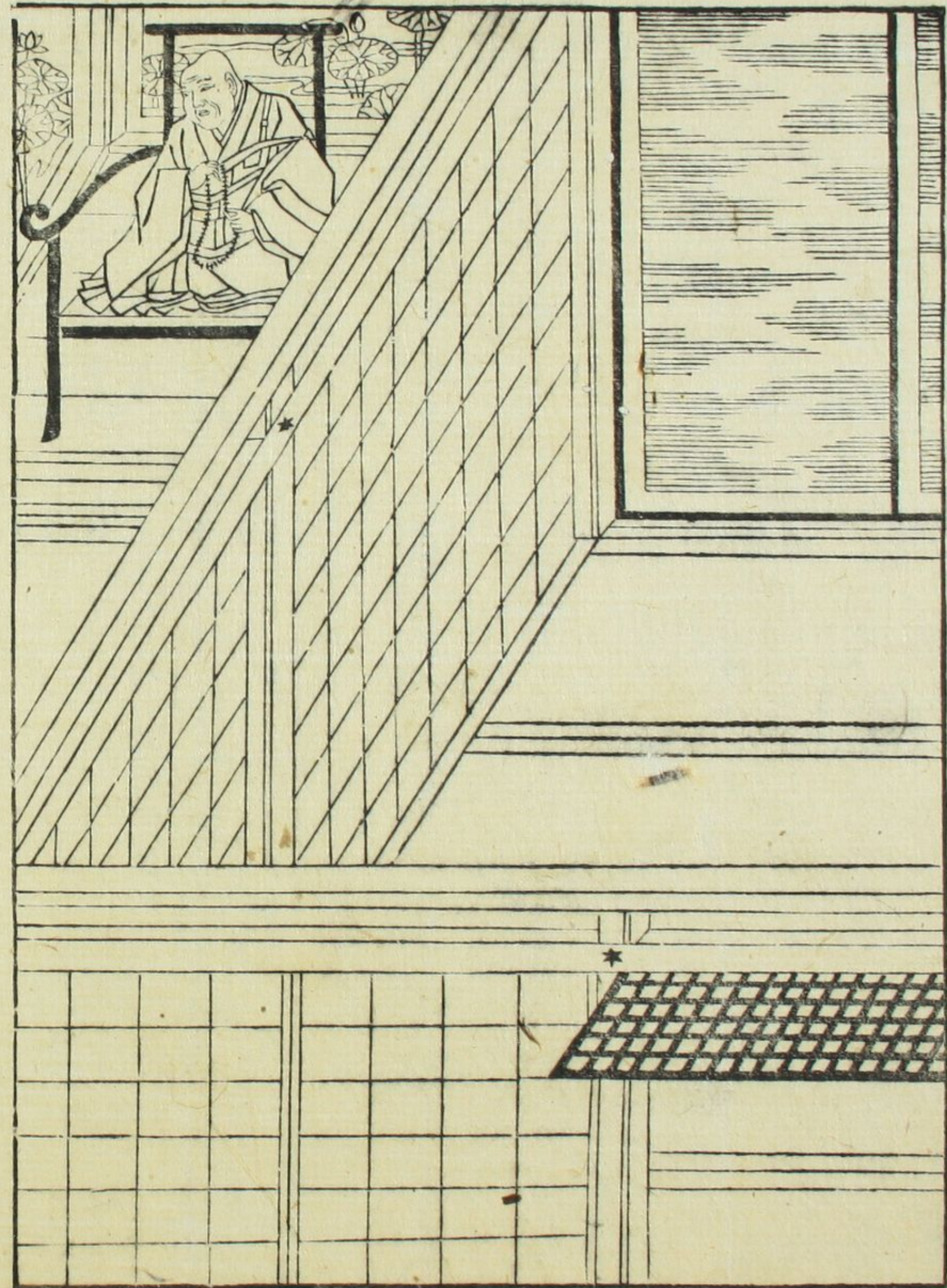
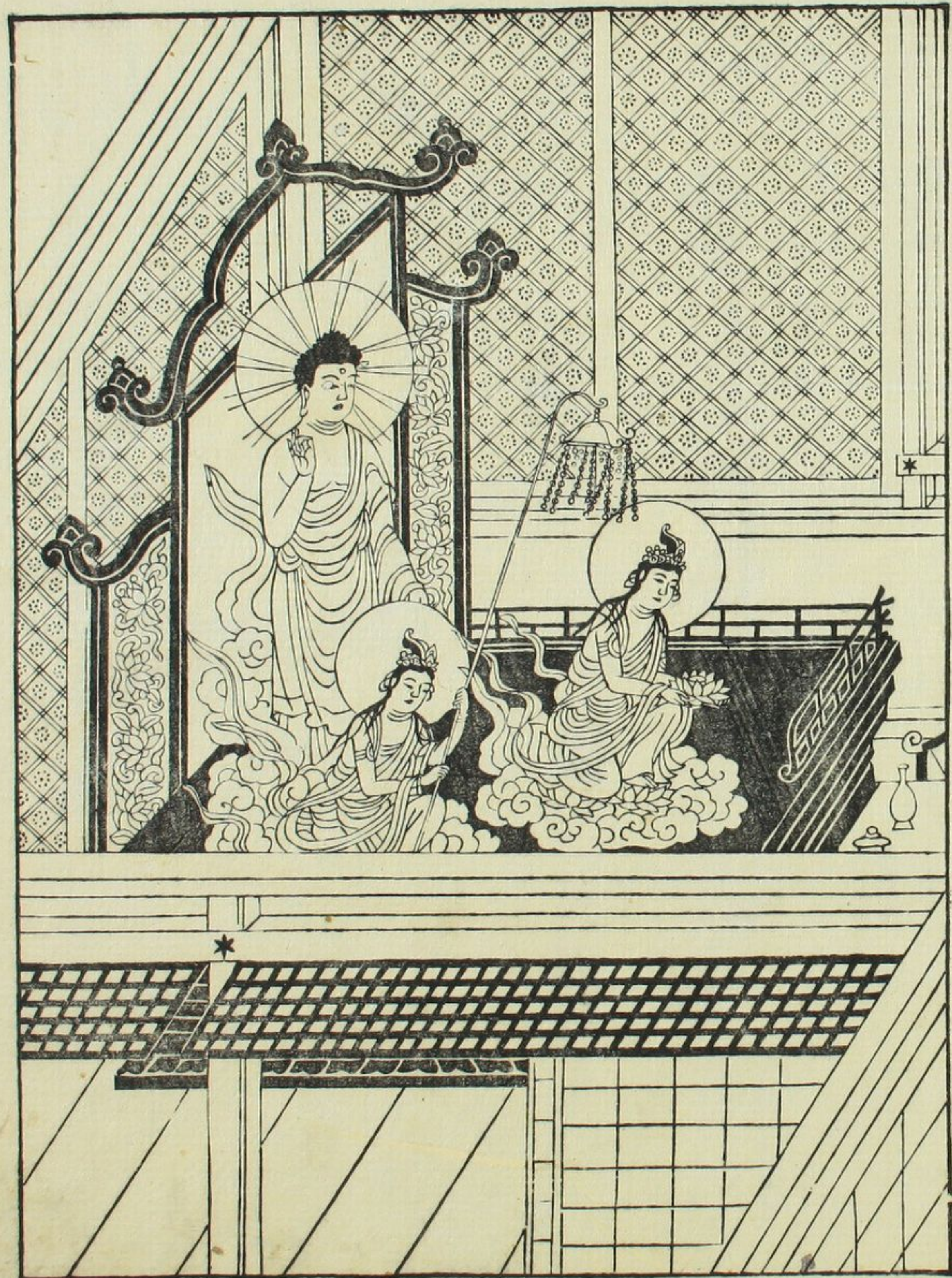


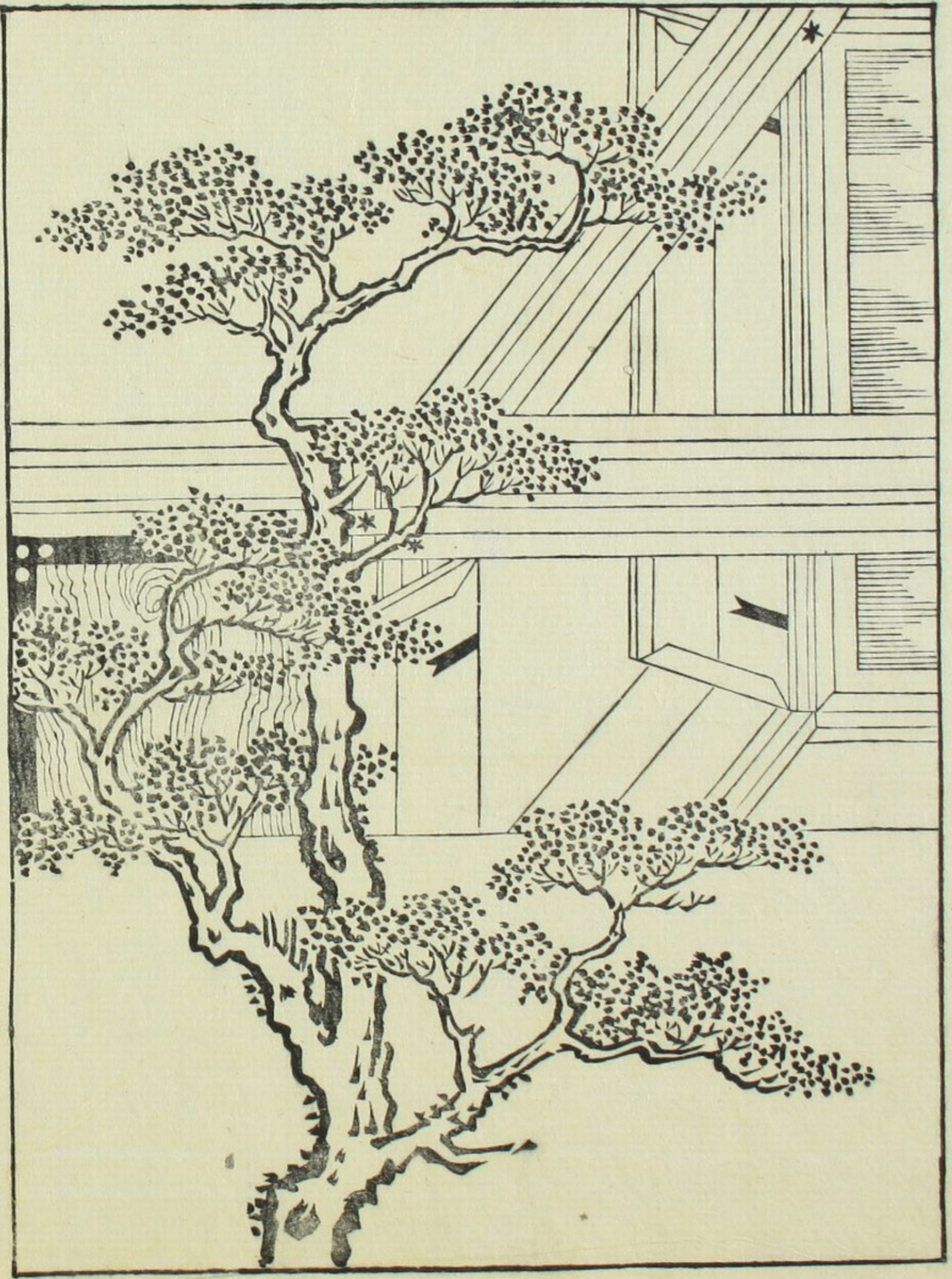


武藏國^{むさしのくに}に御家^{ごけ}人^{ひと}。祭原^{まつはら}九衛門^{くわゑもん}入道^{にゅうだう} 不知^{しち}こ申^{まう}
 今^{いま}もまね。上人^{じやうじん}の化導^{けだう}をばへまきて。吉水^{きちみづ}乃^の
 御房^{ごぼう}へまづひまゐりて。念佛^{ねんぶつ}往生^{おんじやう}に道^{みち}坂^{さか}をへ
 ぬきたてまつりくらのらひ。但^{たゞ}信稱^{しんせう}名^なの行者^{ぎやうじや}と
 たりにまねん。歸國^{きこく}にひをやめ。祇園^{ぎげん}の西^{にし}に
 大門^{だいもん}の北^{きた}にけしに居^いを志^しめて。法^{ほふ}ひに上人^{じやうじん}の
 禪室^{ぜんしつ}よまゐりて。不審^{ふしん}を没^{ぼつ}し。念佛^{ねんぶつ}をこころに
 たりたりなるが。無始^{むし}よりこれる。常没^{じやうぼつ}流轉^{りゅうてん}して。

出離しゆりを此期このきを去さるぬ身みれ忽たちまちに他力たからに乗のりじて
往生しやうじやう候まうこげたゞく生死しやうじのまづれをさる人ひと事こと
ひさへよこれ上人じやうじん御教ごきやう誠まことれしなりとて報恩はうおんの
ために真影まかげをうはしう先まへもてまつらむと
それうろごう感かんじて上人じやうじんこげうこれを
開眼くわいげんしたまふ上人じやうじん御往生ごしやうじやうれ後のちひさよ生身なまみれ
たまひをたうて朝夕あさゆふよ歸依きゐ渴仰かつかうとられ入道にゅうだう
はかよ種たねこれ奇瑞きずいをあらう往生しやうじやうの素懐そくわいを

こげよ々々さまざま年来なまね同宿どうしゆくれ尼本國にほんこくへ海うみのてり
ときとき件けんの真影まかげを知恩院ちおんゐんへ送まわしてまはる
當時とうじ御影堂ごいどうにたうたうま原はら木像もくざうこまれり





法然上人行状畫圖第三十八

參議兼隆卿七八年九月廿一日ゆめりき
 人ありてはほさやるまう雙紙を披見ひけんと。これを見
 き。諸人の往生せいじ候まうと。さうわうぜん法然上人乃
 往生をまうまうと。と。候まうやあるや。見けんてゆん
 ころのたぐよ。上人臨終りんじゆうの時とき光明くわうめい遍照へんしやう十方
 世界念佛衆生せんにふしゆうじやう攝取せきと不捨ふしや乃のち支紙しし誦じゆして往生
 一いつ路ろべべととまま候まうぞり。ゆゆ免めんささめめくくののちち人にんよ

かゝる御いよれ往生れ相よ符合乃あひび。信
仰れより申をくる。又上人往生れ前後よ諸人の
瑞夢これお母し。四條京極の薄師真清。正月
十九日の夜夢に。東山れ法然上人の禪房れう
へり。紫雲そびたり。人あわてまき。往生の
雲なりといぬと見る。次れ日巳時よ。紫雲れ
房れうへよれほへり。處こにこそをみる。ゆめと
符合よ。弟子念あたるぬ。同廿三日れ夜上人

往生れ紫雲。なびよまろきひり。虚空に
ころ。異香はかごと見る。三條小川の倍從信
賢う後家れ養女。なびよ仁和寺乃。比丘尼
西妙ハ廿四日の夜。明日午時り往生し。孩へしと
見て。たごらんたきしりて終焉よ。あぬ。花園れ
准后れ侍女参。河局ハ廿四日れ夜の夢に。と介
住房をんれハ四方よ。錦乃帳をんれたり。
色くあぶらやうりて。きぬりま。ころんてり。

くくこれを見まはる。うらやまのあはれは
いら紫雲のり。上人すぐては往生し給へると
おぼえては免ぬ。花山院右大臣家は青侍
江内だ。びよ八幡は住人。右馬元時。廣子息
金剛丸。同夜よ上人往生の儀を見て。二十
五日は早旦に人よか。天王寺は松殿法印
静。二十五日午尅。脇息よあはれか。里て
休息し給へる夢に。上人往生の時。車の輪乃

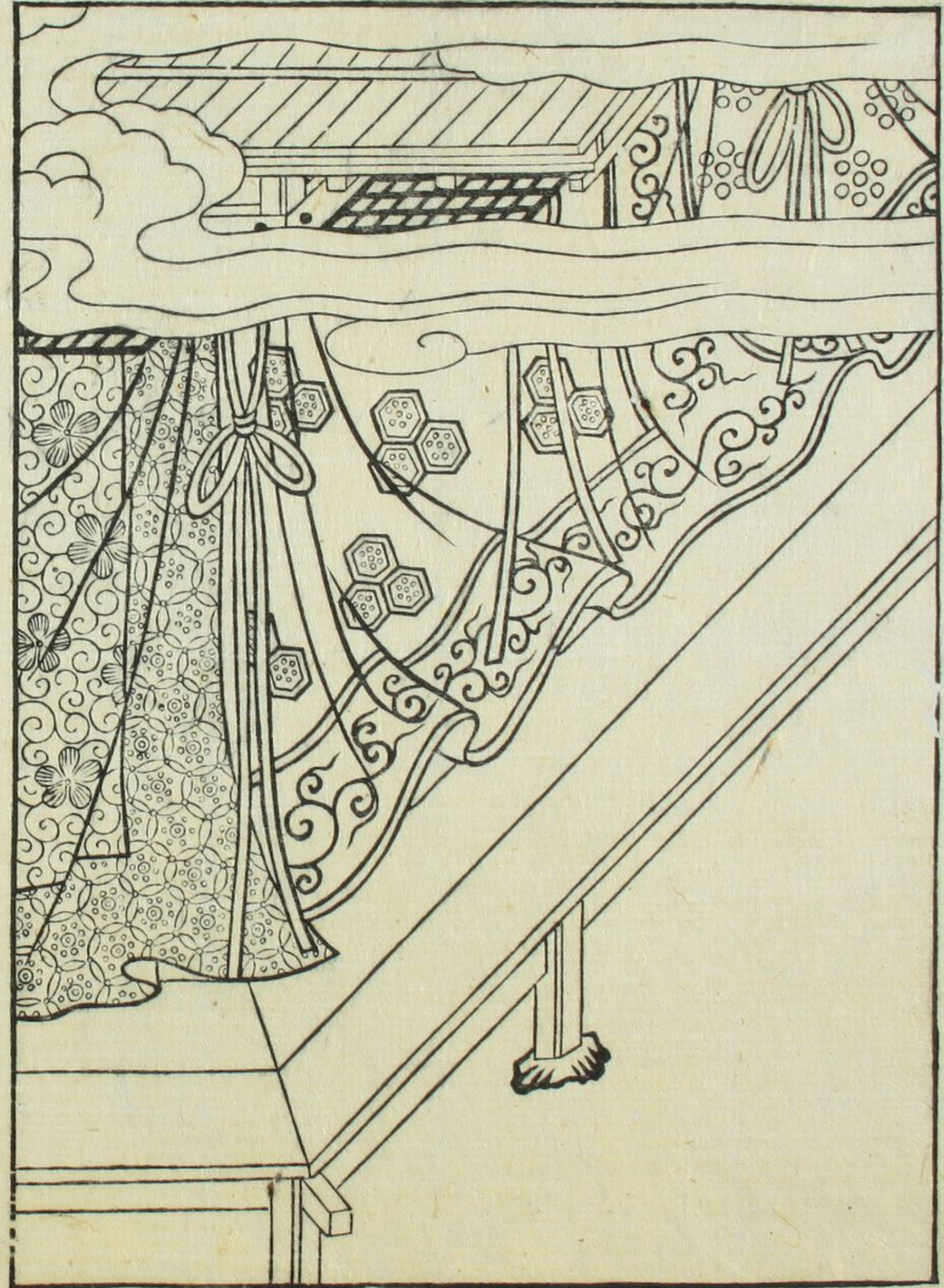
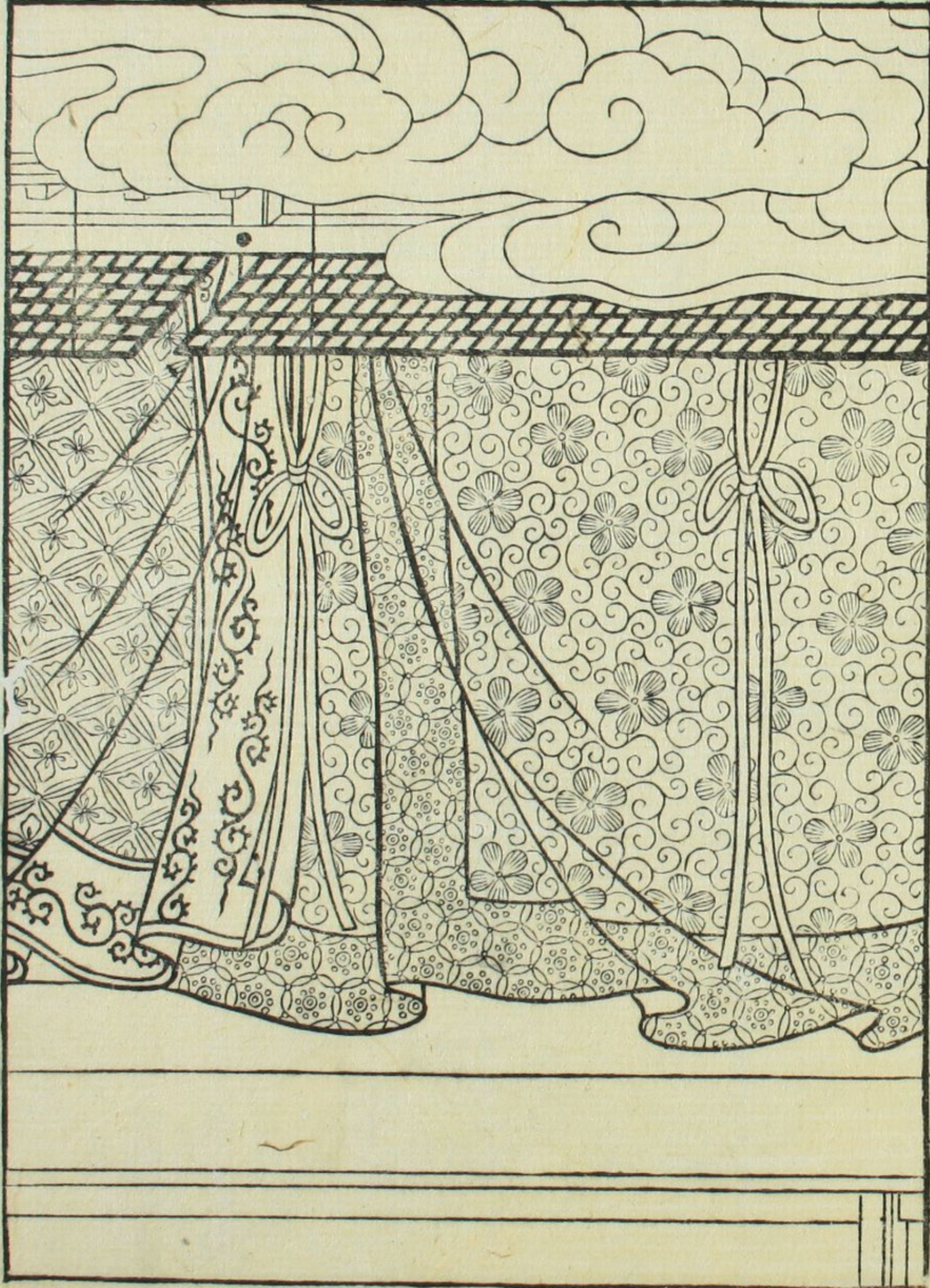
ぶくたる。八幡輪は八方のあはれ。雑色乃
幡を上げて。東より西へゆく。金色は光四方は
て。天地よ。さく。日光映蔽。さく。光
見たまふ。一切経谷は袈裟王丸。二十五日乃
夜童子玉の幡を。千万は僧衆香爐
を。上人を圍繞して。西よゆき。給と見家。
門弟隆寛律師。初七日よあ。りて。晝夜は
念佛を。し。一人の僧さ。りて。上人の

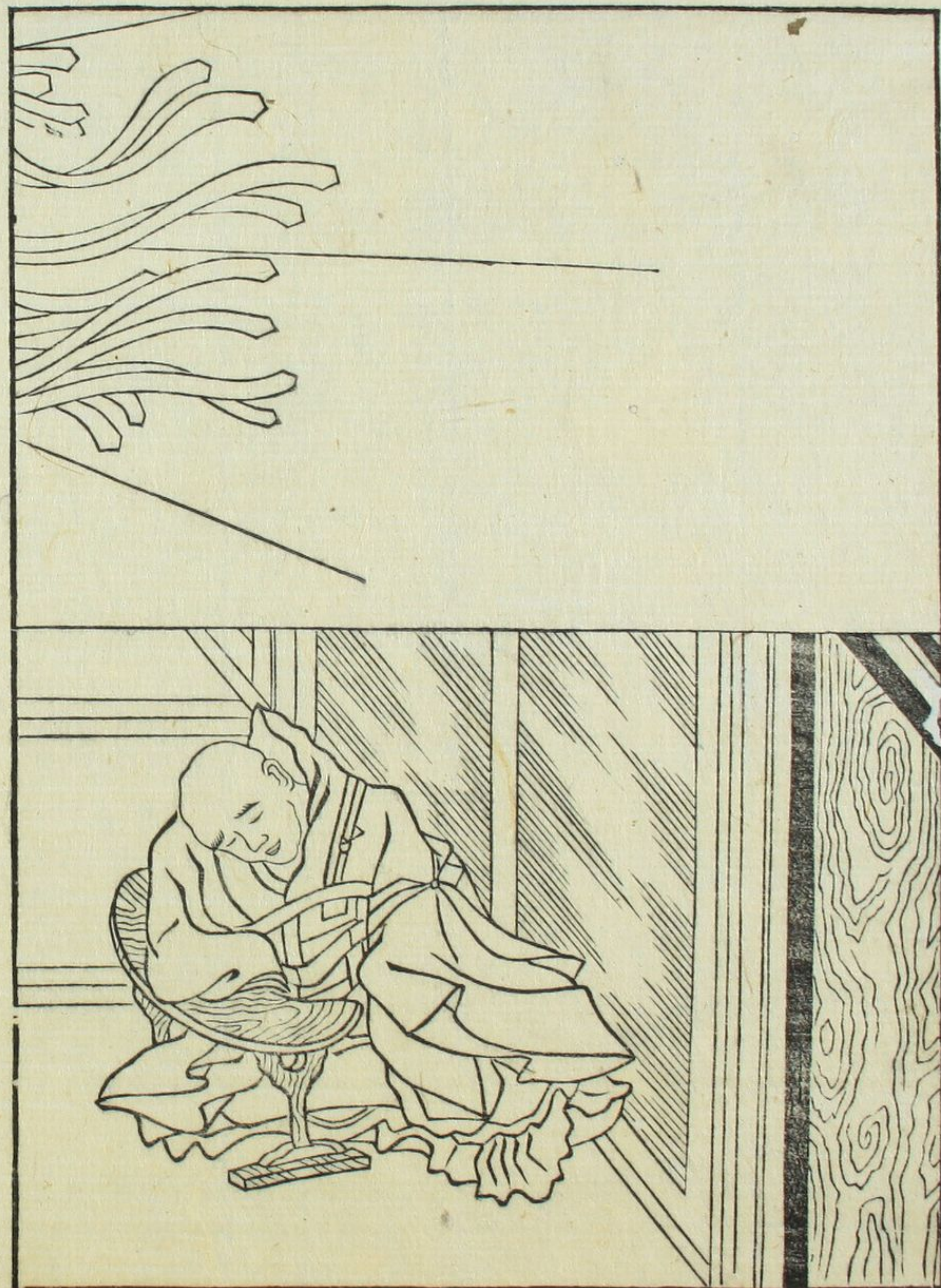
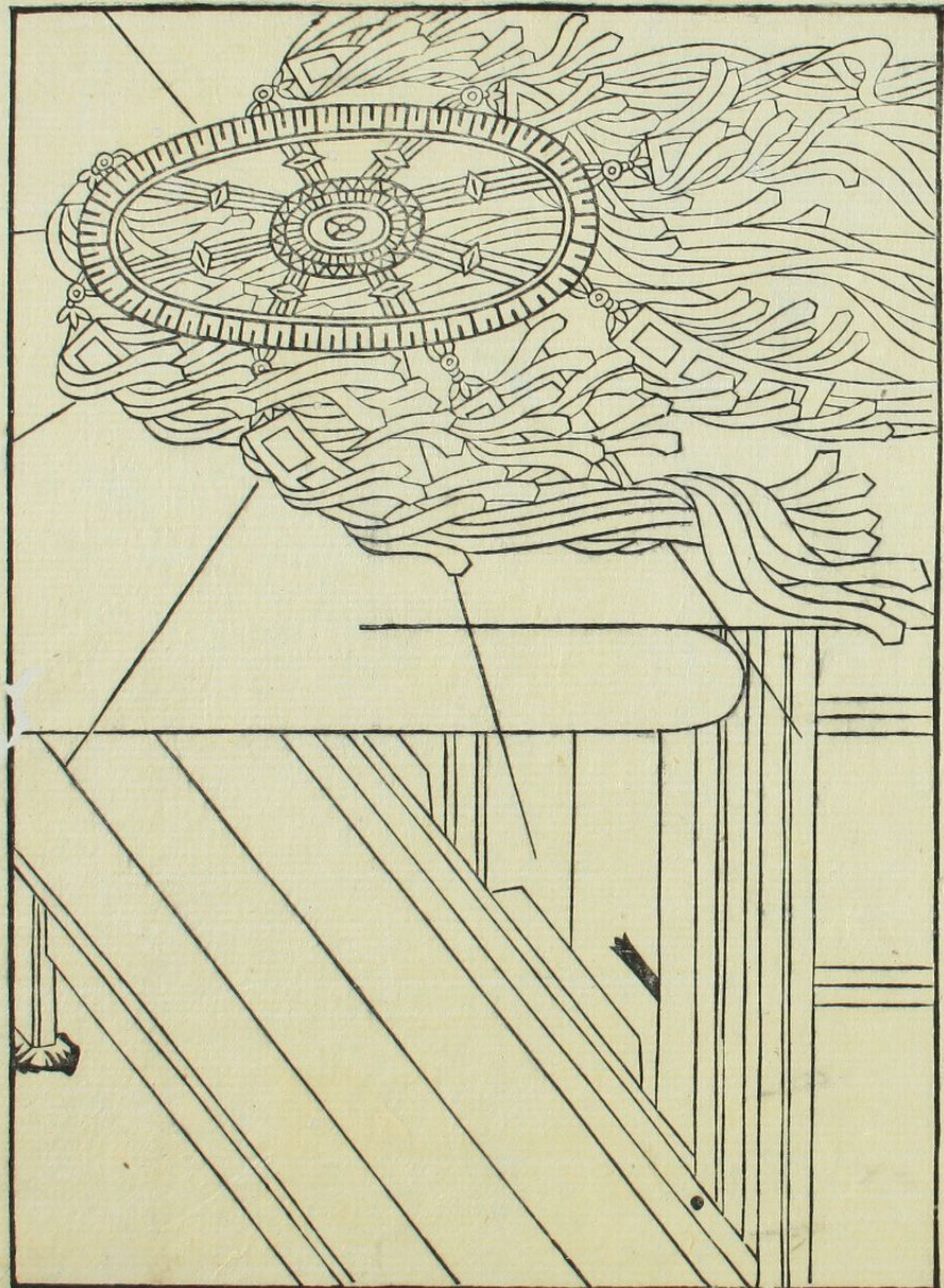


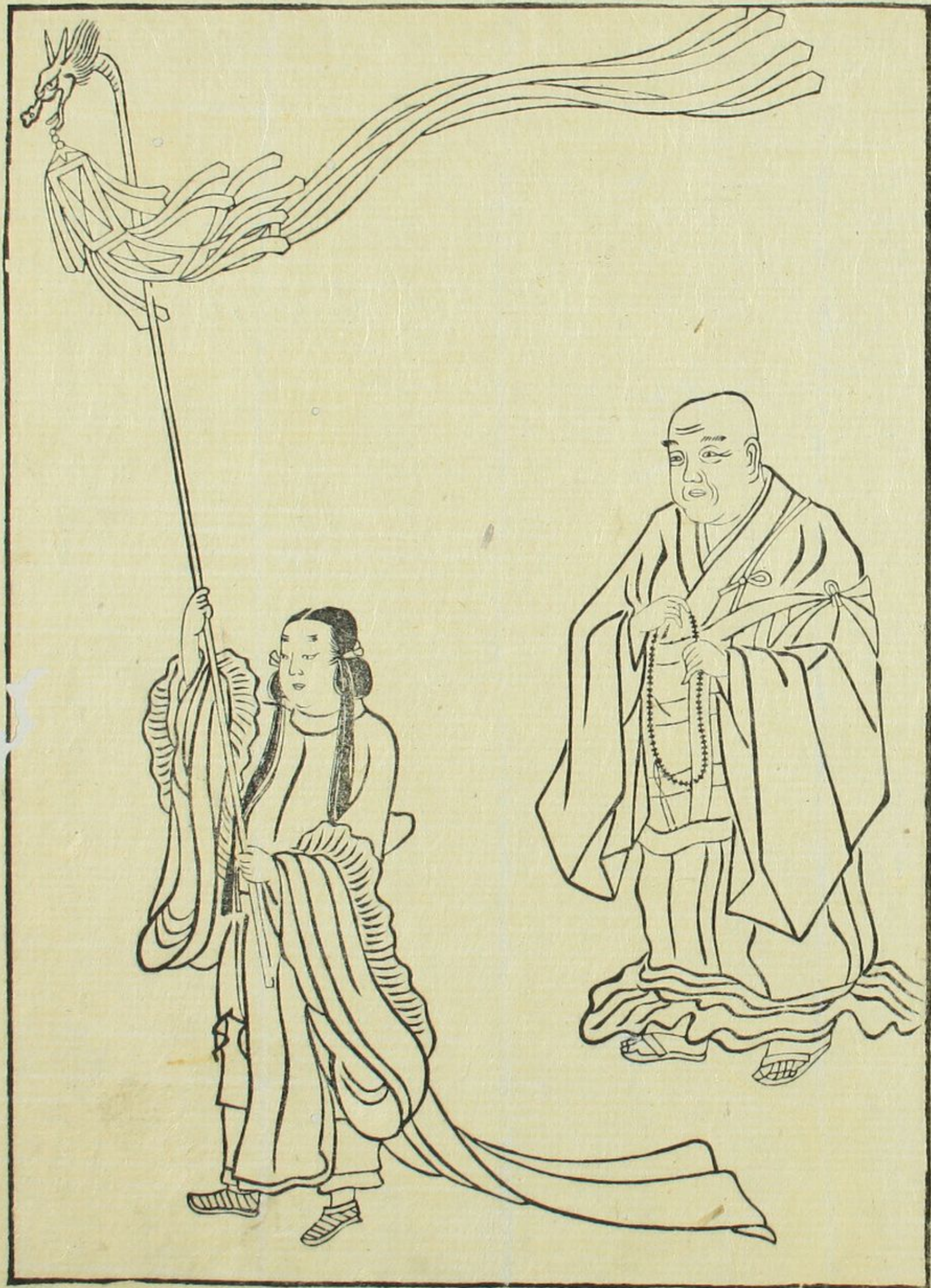
往生傳より拾へりとはげぐと見るすべて諸人の
夢想おほーといふもまがまにふりてはぬ
りしきりし











上人の住居れひんぐうの山岸のうへよ。西にれる
勝地あり。いづる人こまは相傳して自身れ墓所と
らるめをさぐるを。上人入洛のち去年十二月。
うれ領主上人よ寄進す。券契等れ好く寄進
状よあひをへてり。めりすつらきれん。源宣り
ゆつちたふい。こま三寶よ廻向すらるるれり。
佛うけ給へて。火中にたもげ入るれぬ。然し
いま上人往生れこま。この地よ廟堂をせりて。

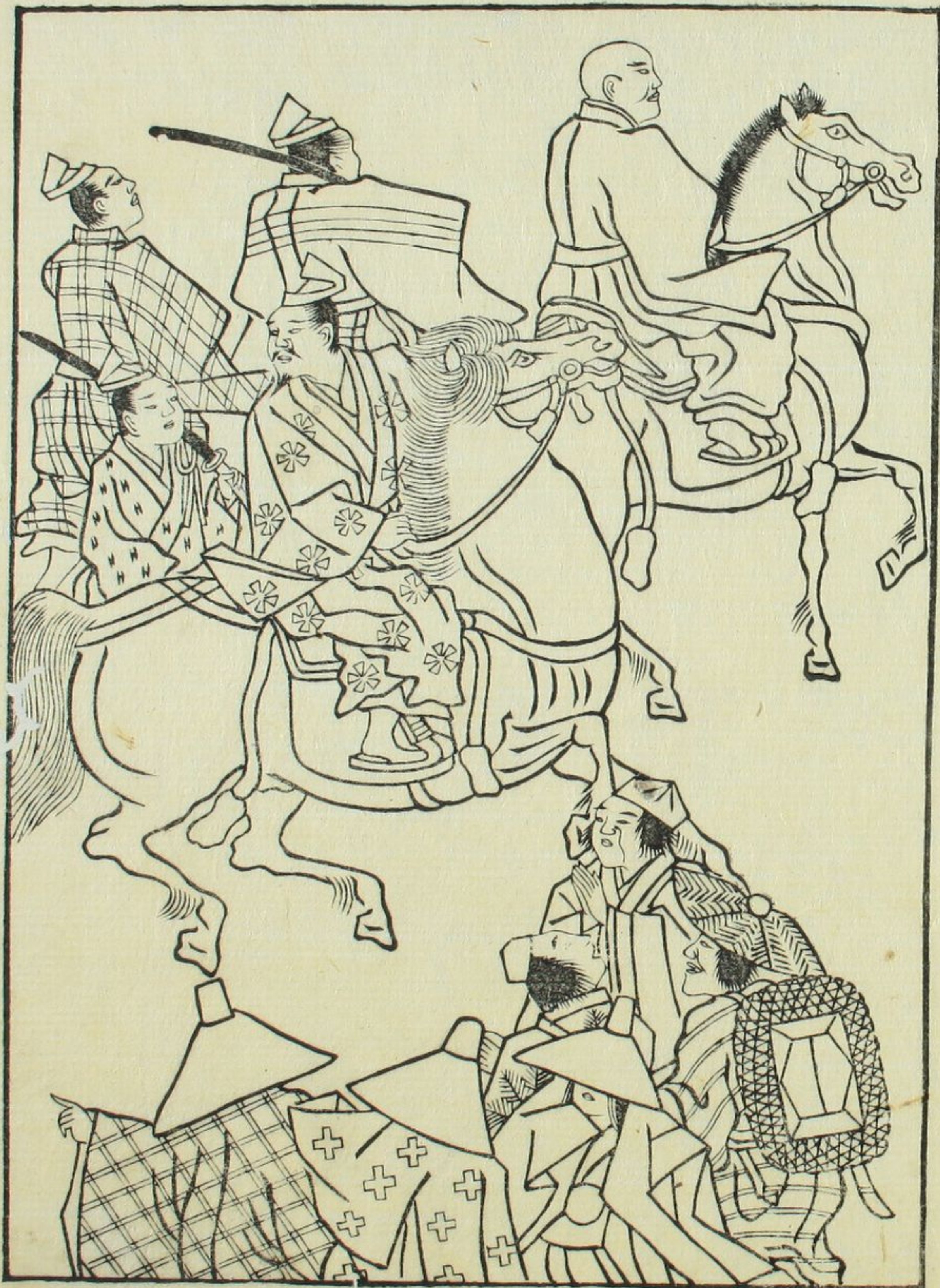
石れ唐櫃がまへて。たふ免をたたまつる。
この地乃事。はひて夢り。見たるこま。うれ
ねほり。なれらも。なにとたり。いづ事れそ
すぎよ。あつる。いま上人の墓所とたると。思
議のたまひを好して。面こよ。夢は。まを
く。れり。のれ地。の北乃庵室よ。寄宿す。る。禅尼
先年の夢よ。天童これ地を。行道すと。見え。
又うれ房主。去年十一月十五日。れ夜。のゆめに。

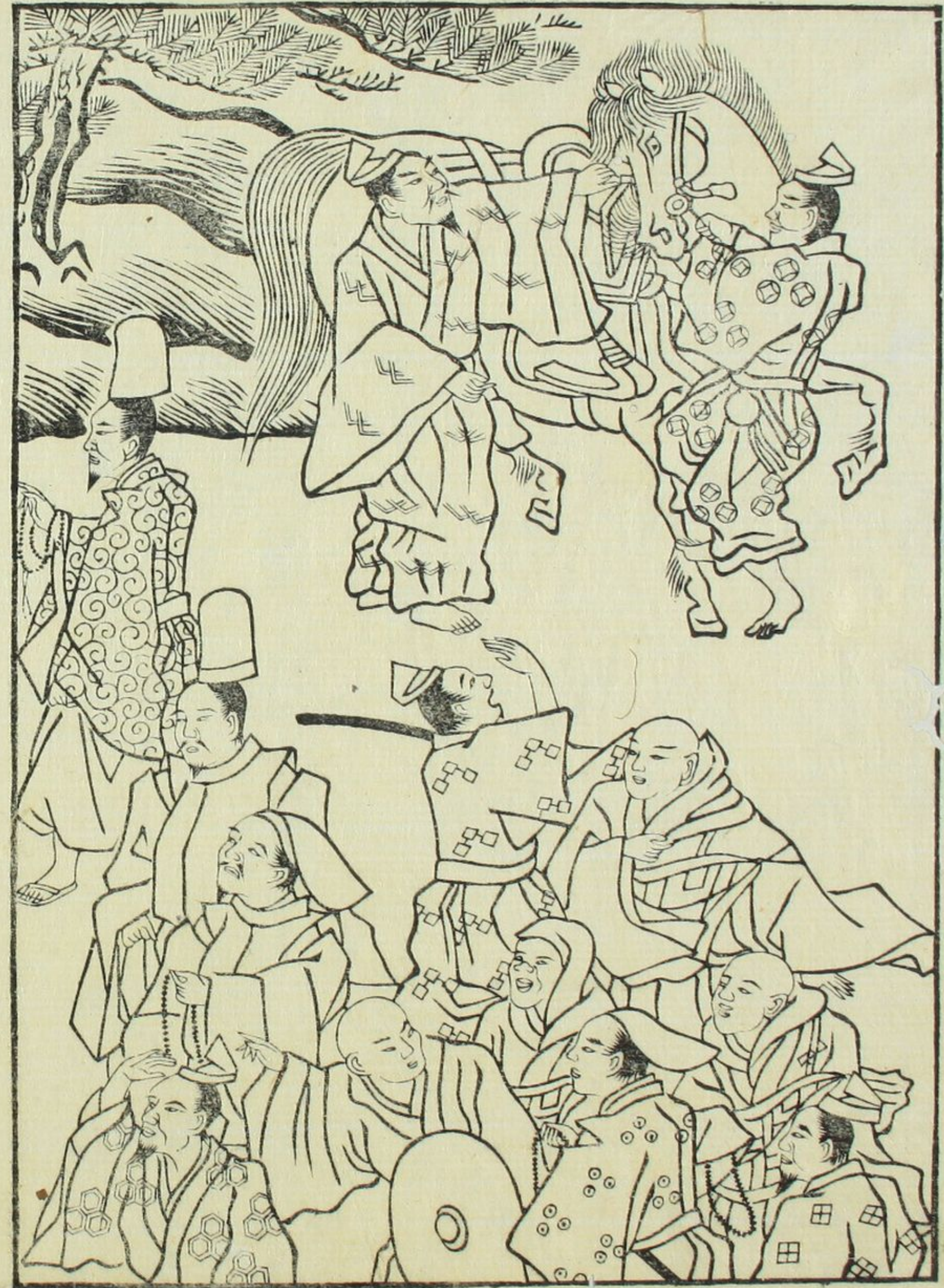
これ地よ青蓮花しょうれんげひらききて金色の光いろくやくと
見ゆ。又隣家りんかの清信女。同月此夢に。この地よ
色この蓮花ひらききて光のく光をくられら妙
香ば薫くんずと見る。清水寺此住僧。同月九日の
夜の夢よ。夜又神等群集しんとうぐんしゅうして。この地を
ひき。石いしはぬむじと見る。別當入道べつどうにゅうだう惟方ただかた卿の娘むすめ
或説よ、
孫云栗田あしだに此禅尼。上人じゆんにん往生此後。二月十
三日の夜乃夢に。上人の墳墓うんぼよまひらたまきん。

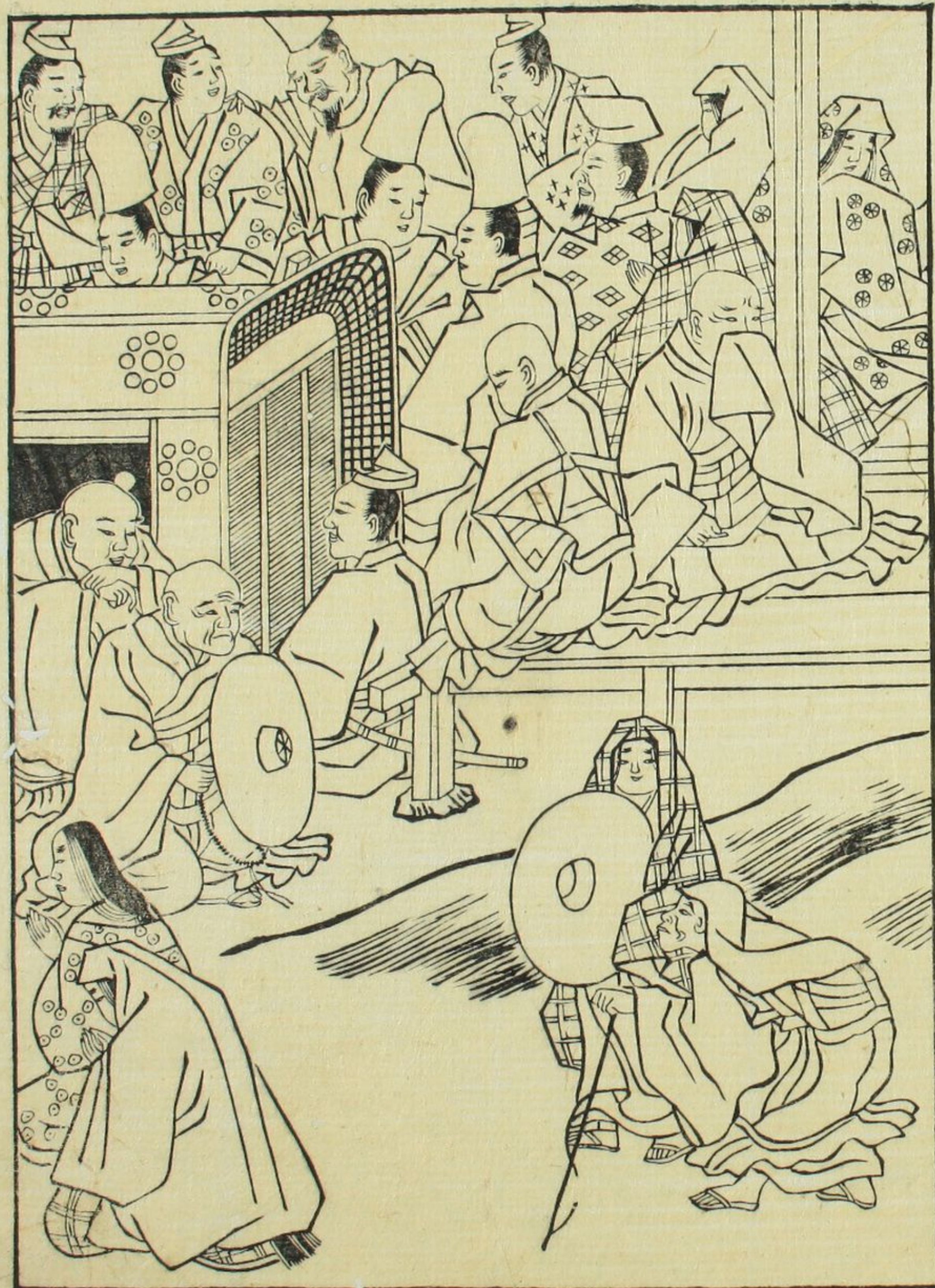
八幡やまはたの寶殿ほうでんなり。御戸ごとをあくる家よ。御正躰ごしょうたい
まうしあると。傍そばれる人々の御正躰をさうして。ま
うそ法然上人ほつぜんじゆんといぬをさうして。信心しんじんたまき。
身みれ毛けいりら。あせたまきこと見ゆ。又一人乃
女人。同三月十四日此夜の夢よ。上人の廟堂べうどうより
まひらたまきん。庭よ色この蓮花れんげあり。一人此
僧そうありて。いもひらけある蓮花一莖かきあり。
へて。これ地より詣まをんまきよ。ま乃蓮花一

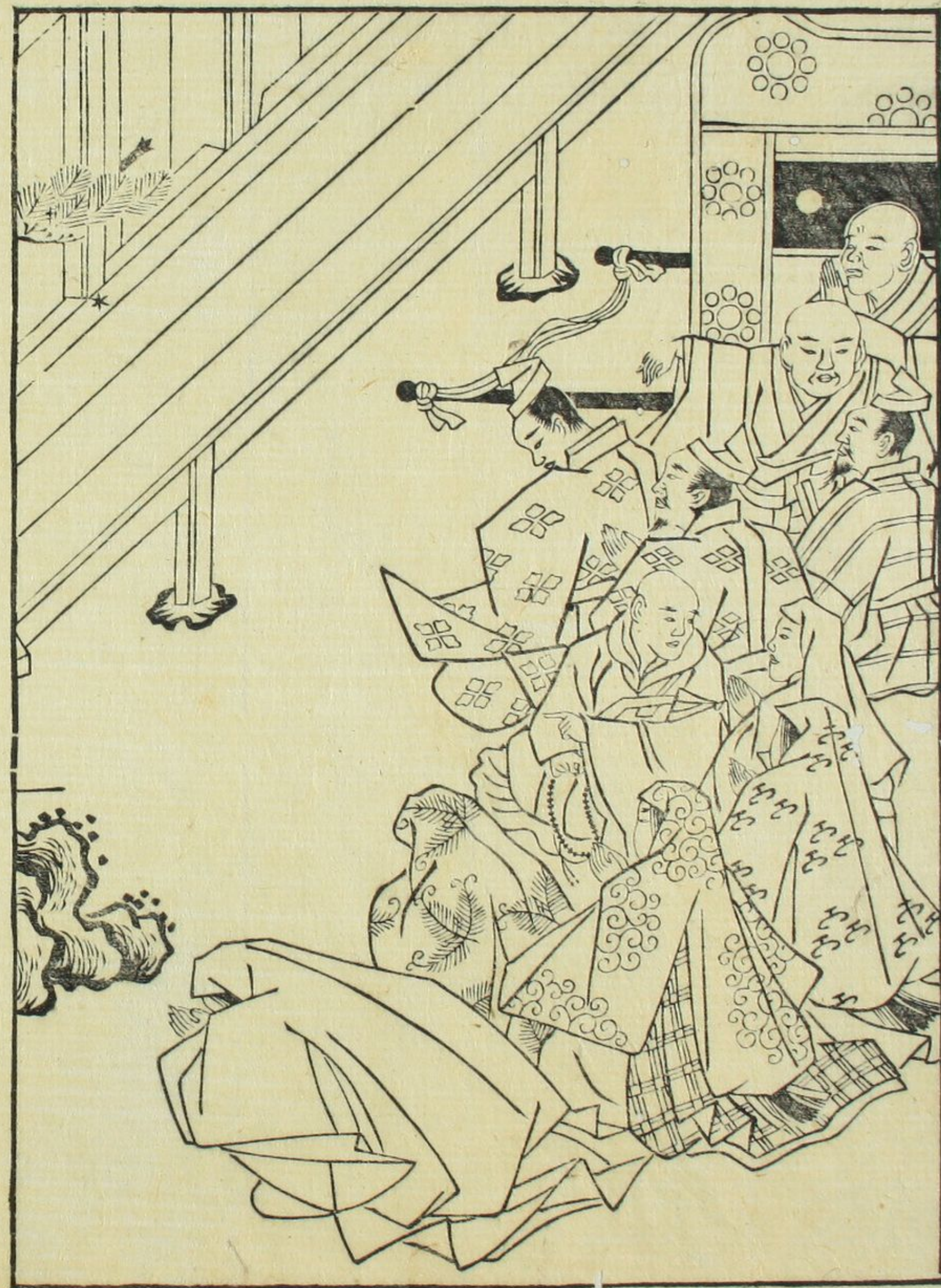
藍^き波^なあつぬへ。これ往生人のみすに在るべき
まゝなり。これ事あまのひを人よきめすべし
この路^{みち}の掌^{てのひ}をあつせしまをうくと思ひて
ゆめをえぬ。これ夢よれどあまきして。これ墳墓^{うんぼ}に
あつてひまのまに。地景^{ちけい}といひ廟堂^{びやうどう}といひ
事^{こと}れ儀^ぎすうと夢にもあつたり。これ信
心^{しん}あつて。これゆを披露^{ひろう}するに。
まゝに返りて。あゆむ。越えしこゆをれ。忌月^{きげつ}を

ひへて貴賤^{きけん}いちをわく。亡日^{むじつ}をよらして上下
そでをほしひらわ。當時^{とうじ}知恩院^{ちおんゐん}といへるま
せぬ。









四條堀河よ。材木を賣買して世後わが家
 をれあわたり。それ名後堀河の太郎入道といぬ。
 ふくと上人よ歸し。念佛を信じて。上人往生乃
 ときい。廟堂此柱をぞもてまつりて。家老に
 上人の中陰よある日れ午尅なり。老翁一人
 上人の墳墓にたづひきて。いづく我ん
 これ西山の樵夫なり。すまぬ寅時れ夢あり。
 一人の僧来ては。なすの強く。法然上人の

墓所の堂此柱奉加。入道。いまま極樂に
 生どゆ記して結縁すべし。と。おまよ。よわく
 る。つひ糸する。うを申。翁のはまに。よわて。
 僧衆等ゆきて。あづめ。に。れ。太郎入道ハ。
 所勞よ。よわて。これ程。東石藏禪林寺の東なる所よ
 移住。り。と申。あひび。を。め。く。れ。所。へ。行。て
 る。い。ぬ。に。は。る。事。侍。り。事。れ。縁。あ。り。て。我。よ
 侍。り。と。人。よ。い。に。さ。は。ま。し。く。

臨終^{りんどう}れらふいぐより^い感^{かん}志^しめり。念佛^{ねんぶつ}をす^す免^{めん}
 預^よたりとて^とよろこ^こひ侍^しつる^つが^がすま^まぬ^ぬあ^あの
 いま^いすぐ^ぐよ^よ往^{わう}生^{せい}候^{こう}ら^らげ侍^しぬ^ぬと申^{まを}す。多^た
 ば^ばい^いの^の僧^{そう}衆^{しゆ}。た^たび^びよ^よ老^{らう}翁^{おう}夢^むれ告^つの^のた^た
 づ^づい^いら^らる^る事^{こと}感^{かん}と^と上^{じやう}へ^へ繫^{けい}属^{ぞく}結^{けい}縁^{えん}れ^れし^しか
 かつ^{かつ}ぬ^ぬご^ごる^る事^{こと}を^をよ^よら^らび^びて^てを^をの^のく^くた^たる^る
 を^をぞ^ぞた^たご^ごう^うを^を





